

栗山忠昭村長、ありがとうございました。

栗山村長の後押しと叱咤激励によっ

われわれもブレることなく活動を進めてきました。

本財団の栗山忠昭理事長が

この7月をもって川上村長を退任されます。

これまで3期12年にわたり

「水源地の村づくり」を牽引してこられました

そのあらゆる場面において、またいつも中央に向かっても

それは国民みんなで守源流の価値を訴え

強く発信して来られました

それは国民みんなで守るべきものであることを

2002年 4月29日(月)7:29AM

これからも「喝!」を入れていただきたいと思います。

紙はすでに日に焼けていますが

時折これを眺めることが、

われわれにとっ

ての力水でした

これを22年間、

事務所に掲示しています。

2002年4月2日、

村の収入役でいらした村長からファクシミリが届きました

森と水の源流館が誕生の朝

深流館又外7~岩址 入

が美の山々日に映えて海底館、ないの 部、出陣、に悪いないの みといり日にふえわしい「森とから海流館」のオープンのホットおめでとうと いよよる本一美いっと海性の村づ とりらのはいまりですねの村長にか わり、その任務をおとうするよう。

強くらうします。(まへんちゃつい) ps 海流館に人が花が咲い、杉の湯でがまぐちか 肉に以生がないます。 かな健康でかとはるる 何はともみれ、オメデトウェルの 乗山

栗山村長

長きにわたりお疲れ様でございました。 森と水の源流館スタッフ一同 心から感謝を申し上げます。

本来ですと

ここにはご本人からのお言葉を掲載すべきですが われわれなりの表現としてみました。

村長及び読者のみなさまへの失礼をお許しください。

2024年7月

公益財団法人 吉野川紀の川源流物語 事務局長 尾上忠大

環境省 近畿地方環境事務所 地域循環共生圏·

脱炭素推進グループ



だ本で、(環境省に)「自然保護官」という、 然にふれていたそう。高校生の頃に読ん や森と水の源流館とは、 やりがいを感じたという土田さん。川上村 務職として環境省の仕事に就き、2年目 り、プレンジャーにもあこがれたとのこと。 公務員として自然を守る仕事があると知 虫をモンシロチョウにかえしたり、カブト ムシを捕まえたり、ガーデニングなどで白 仕事を手伝いながら、キャベツについた幼 所に住むおじいちゃん、おばあちゃんの畑 京都八王子市の生まれ。子どもの頃は、近 レンジャー職には就けませんでしたが、事 環境省に入省し、6年目の土田さんは東 レンジャーのサポートの機会があり、 自然環境局での事務に携わったこと どんな出会いが

-川上村や森と水の源流館を知ったのは?

は センター主催の「学びあいプロジェクト」で る森と水の源流館を知りました。近畿ESD 進事業の中で、^{**}地域ESD活動推進拠点であ 令和4年度から担当となったESDの推 奈良市立平城小学校の先生との連携に

もいや取組、また「川上宣言」などについて さらに年間を通じて、同館のESDへのお なかったので、令和5年の秋、プライベー ましたが、なかなか業務で出かける機会が 地を訪ねてみたいという気持ちが湧いてき も聴かせてもらいました。それで、一度現 よる授業づくりの例を紹介いただきました。 トで「水源地の森ツアー」に参加しました。

> 思いました。 違いも感じられました。現地をよく知っ た人の案内があるから、わかることだと 林に挟まれた渓谷で、それぞれの空気の を教えていただきました。人工林と天然

-日々の仕事とつながることは?

います。

の仕事に追われている自分に気づき、あら 強いおもいや熱を感じたことで、淡々と日々 たいです。 ので、ぜひ、このような体験をしてもらい もっと目の前の仕事に追われていると思う りました。東京の職場で働く仲間たちは 仕事をしていきたいかを問い直す機会にな ためて当初の志を思い返し、何を目指して なで守っていきたいというスタッフの方の ツアーの中では、源流の自然環境をみん

ふと自分を見つめ直すことができた源流での体験 目の前のことに、つい追われる日々の中で

-源流の森を訪れた感想は?

付き合い方、生態系などたくさんのこと 生き物のこと、林業のこと、人と自然の み入れるにあたっての心得や、自然の厳 れる時間ということはなく、森に足を踏 した。しかし、ただ自然に触れて癒やさ しさも伝えていました。一歩進むたびに 姫」の森のように神秘的な自然がありま 人たちに伝えた第一声です。「もののけ 「ジブリの世界でした!」 それが職場

森と水の源流館の活動の魅力、期待はっ

から、 されるところにも注目しています。それ 動の変容までつなげていくことを目標に をありがとう」で終わってはダメで、 いるのでしょうね。同じく、「きれいな水 も言われます。だから20年以上も続いて やそこの人たちが輝けるように…」と、いっ どもたちや学校のためにだけでなく、地域 学校との取組を多くされていますが、 森と水の源流館だけでなく、 上

の人の顔が見える取組であることも素晴ら 村の村長や役場の職員、村民の方々、流域 知ってもらえる場を設けられたらいいと思 なく全国的にも、ESDに取組む人たちに しいですね。これから、近畿エリアだけで

います。 取組を広めていってもらえればと思って の観点からも、引き続きこの素晴らしい の両立をはかることとされています。 学校の教職員の負担軽減と教育の質向上 業等をつなぐ中間支援機能の充実による の推進に向けた、学校と地域・団体・企 た。それを受け、第六次環境基本計画で 方針の変更について閣議決定がされまし 先日、「環境教育等促進法」の基本的な 学校内外での対話と協働による学び 環境教育の強化が盛り込まれてい

※ 国立公園や希少野生生物の現地管理業務を行う環境省

け、ESDを広め、深めるための支援窓口。 全国及び地方ESD活動支援センターと連携し、それ



自然からの声に耳を傾けるとき

一令和5年度調查報告

森と水の源流館の調査事業の目的

立した調査項目ですが、調査結果からある共通の課題 究は次のとおりで、森と水の源流館においてこの報告 が見えてきました。 会を令和6年1月27日に実施しました。それぞれは独 活動を行っています。令和5年度に実施した調査・研 することにより、共に考え行動する仲間の輪を広げる 流域をはじめ都市部の人々に川上村の価値を広く発信 し、川上村の自然や歴史・文化に関わる調査を行い、 森と水の源流館では「樹と水と人の共生」を目指

定款に定める事業項目(◆) に基づく 令和5年度の調査・研究実施内容

- 水源地域及び流域における参加型観察調査会の実施
- 吉野川紀の川しらべ隊 (2回)
- 村民等と連携した生活・風習など民俗調査 (3地区)
- 吉野川紀の川流域の自然実態調査(10回
- 「吉野川源流 ―水源地の森」自然実態調査の実施
- 水源地の森下層植生調査 (4地点3回
- 和歌山県立自然博物館・摂南大学との魚類調査(4回
- 源流部における斜面崩壊地での対策実態調査
- 村内のニホンジカの生息密度の推移調査(1回)

村民等と連携した生活 民俗調査 白屋 ・井光・北和田 ・風習など

調査の目的

吉野川紀の川流域の自然実態調査

[調査の目的

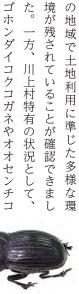
多様性保全の関係性を示すことを目的としています。 として活用することによって、川上村の暮らしと生物 流域の山野草の里の2地域と川上村の昆虫相の比較か 吉野川紀の川中流域の根来山げんきの森、大和川源 地域の特徴をつかみ、土地利用や地域資源の情報

「調査結果の概要

築の外壁などを利用するハチの種数が多く見られ、奈 るムカシトンボ、コケを利用するムカシヤンマやアル ていることがうかがえます ら、集落の環境が安定的であり、 良県では希少または未記録種が含まれていることか の湿度環境が安定しているといえます。また、木造建 マンアナバチが見られることから、川の水質と森林内 川上村では、冷涼できれいな水が流れる沢に生息す 牧歌的な景観が残っ

[考察と課題]

と草地がバランス良く利用されていることがうかが 種構成になっていますが、バッタやイモムシなどを餌 にするハチの仲間が安定して見られることから、森林 地域で土地利用に準じた多様な環 他の地域と比較した結果、それぞれの地域で異なる 全体的な出現種のバランスの良さから、 それぞれ



一方、

村内のニホンジカの生息密度の推移調査

おけるニホンジカの推定生息密度を調査しました。 地での対策を検討するため、 鳥獣害被害状況を把握し、 源流部における斜面崩壊 鹿糞粒法を用いて村内に

|調査結果の概要

とが判明し、駆除が追い付かないほど増加しているこ めると、その推定生息頭数が2000頭前後であるこ とが示唆されました。 れていますが、村内5ヶ所の糞粒数を計算式に当ては 川上村では毎年500頭のニホンジカの駆除が行わ

点になるほど高くなる傾向が見られました。 の森の順に、 生息密度については、伯母谷、高原村有林、 集落から離れ、 餌となる植生が豊かな地

[考察]

考えられますので、今後も定期的な調査を行っていき こともニホンジカの個体数増加に影響しているものと 出している群れが存在することが考えられます。ま 森林内の下層植生の減少に伴い、餌を求めて集落へ進 た、生活様式の変化により、 伯母谷の集落内に糞塊が数多く見られることから、 森林利用が低下している



村の生活・風習を記録することを目的としています。から地域の方々と記憶を補完し合うことにより、川上の会話のきっかけとなるよう活用し、その情報の共有の民俗・文化調査」の際に借用した写真を、参加者と村民さんからの聞き取りを行うにあたり、「川上村



調査結果の概要

古野川紀の川しらべ隊では、源流人会さんと一緒に
吉野川紀の川しらべ隊では、源流人会さんと一緒に
吉野川紀の川しらべ隊では、源流人会さんと一緒に
吉野川紀の川しらべ隊では、源流人会さんと一緒に

[考察と課題]

の関わりを発信していく必要を改めて実感しました。きる限り早急に記録を残し、かつての暮らしと自然とった風習、郷土料理などの技術的な部分について、です。村の民俗文化を残してくために、取りやめてします。耐化のため年々調査が難しくなると感じられま

の糞が多いことがうかがえます。できることから、餌となるニホンジカガネが奈良公園と同程度の頻度で確認



水源地の森の下層植生調査

[調査の目的]

ジカの影響を明らかにすることを目的としています。一個内外で比較する継続調査を行うことにより、ニホン表土流失や斜面崩壊につながるため、ニホンジカの侵表土流失や斜面崩壊につながるため、ニホンジカの侵表土流失の斜面崩壊につながるため、ニホンジカの侵水源地の森の下層植生衰退の要因の一つに、ニホン水源地の森の下層植生衰退の要因の一つに、ニホン

[調査結果の概要]

樹が成長していることが確認できました。防鹿柵の内側は植生が回復し、樹林更新に必要な後継調査を継続してきました。その結果、食圧を受けない2003年に防鹿柵を設置し、初夏と秋の年2回の

[考察と課題]

ます。 生能力を発揮できるよう、継続して調査を行っていきによる土留め効果などに着目し、水源地の森が樹林再による土留め効果などに着目し、水源地の森が樹林再が鹿柵外で増えているシキミやアセビなどのニホン



防鹿柵内側

まとめ

[見えてきた課題

森との距離が開きつつあることを伝えています。
特代の変遷とともに生活様式が変化したことにより、「樹と水と人の共生」でした。ニホンジカの増加は、 豊かな森の恵みを享受する川上村の暮らしでさえも、 間と水と人の共生」でした。ニホンジカの増加は、 まさに

[かつての暮らしに学ぶ]

源流館では今後も調査を継続していきます。 声に耳を傾け、 自身が書き起こした「白屋の名所地図」、手作りの「白屋 の村づくりに向けて情報を発信できるよう、 持続可能な状態にし、暮らし続けられる豊かな水源地 の結果をリンクさせ、「都市にはない豊かな暮らし」を たこと、そしてそれを慈しんでおられることが分かり 在ったからこそ、 禁日と柿の葉寿司は初夏の風物詩」など、自然からの 使うアセの葉は人知の河原で採った」「6月のやわらか いただきました。資料の受け取りの際にお話を伺うと、 の暮らしカルタ」などの資料を元住民の方々から持参 い葉を使って柿の葉寿司を作っていたから、アユの解 「お月八日の花は山のあの辺で採ってきた」「チマキに 民俗系調査の資料になればと、昭和3年の「白屋公図」、 かつての暮らしに学び、自然系と民俗系調査 生物資源を利用してきた文化・風習が 川上村の豊かな暮らしが築かれてい 森と水の

防鹿柵外側

夏休み宿題おうえん フ

今回は

皆様とともに

森と水の源流館では、

吉野川紀の川

調査やイベン

源流を守

応援いただいた皆様



環境省吉野管理官事務所



和歌山県立自然博物館



白い犬 ~ Anjing Putih



杉浦農園



置された当館の役割をあらためて再認識するとと

源流人会員さんや流域の皆様、

村の皆様

菜をいっぱい買っていただきました。

てくださりました。

そして、 9団体が

地区の皆様には、

野

宮の平に設

付 声

ける中、

"応援,

駆けつけ 真夏の太

NPO 法人根来山げんきの森倶楽部



ツクルテウムテ

とも

あ

源流

館を実感

気持ちでい

っぱい 森と水の

0)

日となりまし



和歌山県立紀伊風土記の丘

に実施し

した

「夏休み宿題おうえんワー

クショップ

る思いを深めてきています。

昨年7月17日

(日祝

トなどを通じて様々な協力関係を築き、 流域の方々との出会いを大切にし、

皆様に 陽が照り

、かけさせていただくだけで**、**

大集合」

では、

源流人会員さんや流域等の団体の



NPO 法人山野草の里づくりの会

Ļ

夏の想い出づくりに、源流館に涼みに来てくださ

スタッフ一同お待ちしています。皆様お誘い合わ

してご来館いただけるように噴霧機能のある大型扇風機を 水まきで汗をかきました。今年はその反省を活かして、

啓発・観察会

"

環境省吉野管理官事務所 和歌山県立自然博物館

ワークショップ

和歌山県立紀伊風土記の丘 NPO法人山野草の里づくりの会 NPO法人根来山げんきの森倶楽部 ツクルテウムテ 白い犬 ~ Anjing Putih ~

野菜販売

杉浦農園 やまいき市(ふるさと市にて)

ベンガラ染、

葉っぱ型のステンシル、

木工、

生きものタッ

ルなど昨年以上に先生が応援に来てくださります。

工作など楽しみながら学べる一日。 たちを応援していきたいと思います。

自由研究にお役立ち!

当日は自

然観

察

歴

史・暮らし・

生きもの・

環境·

Ш

のことなど、

自

質問してね

なんでも「森と水の源流館」にきて、

年は、

皆様が熱中症にならないようにと、

スタッ

安心 フ

集めてね。 イベントの最後に、当館オリジナル商品などが当たる抽選 おたのしみ抽選会 森と水の源流館 2024. 8.11(日本紀) 10:00~16:00

∖宿題おうえん!//

お申込み/お問合わせ 〒639-3553 茶見県吉野郡川上村宮の平(迫1374-1) Email morimizwagenryuu.or.jp URL http://www.genryuu.or.jp TEL 0746-52-0888 FAX 0746-52-0388

会があるよ!ワークショップへ参加や入館してスタンプを 2種以上3個集めると抽選券一枚お渡し

今年もやります!ご参加ください

クショップ大集合」の日として、 8 月 11 (日祝) 山の日を 皆様とともに子ども 「夏休み宿題おうえん

時とつながる

川上中学校を統合した「かわかみ源流学園」 が開校しました。 (2024) 年度、 川上小学校•

進み、 高校まで揃いました。やがて産業構造 南高校の前身)が開校して小学校から 13(1924)年、 校もあり、明治32 よる人口減少によって学校の統廃合が 小学校(現在の中学校相当)ができ、 学校の歴史を振り返ると、川上村が誕生 した明治22(1889) 年には小学校が15 「かわかみ源流学園」が 「全村民の母校 変化や大迫ダム・大滝ダム建設に は教育」の理念のもと開校した まは 村づくりは人づくり・ (1899) 吉野林業学校(奈良 年に高等 大正

となることになりました。 「かわかみ源流学園」にいたる村の

2003年)が「大阪工業大学・川上村環 水の源流館は総合的な学習の時間を活用 を学び、つないでいく場となるよう、森と 実感させられます。このたび開校した 域の記憶をつなぐ役割の大きさを改めて 話して頂くこともあって、 るほか、 武道場「川上源流舘」として活用されて 境教育セミナーハウス源流分校」と村営 「かわかみ源流学園」も、ふるさとの想い 統廃合後も川上東小学校(1983~ 児童・生徒の「ふるさと力」を育む 地区に学校があった頃の想い出を 民俗調査で公民館に聞き取りに伺 跡地を公民館としている地区も 学校がもつ地

お手伝いをしていきたいと思います。 西河 大滝 北海市 白屋(田) 瀬戸 下多古 白川渡 粉尾 上多古 瀬戸(団地) 北和田 大迫 伯母谷

かわかみ源流学園の竣工式 (3/13 西河区) (写真提供:川上村役場)

学校の沿革と分布図

●は明治、●は大正、●は昭和以降にできた学校です。 次第に「かわかみ源流学園」に集約されていきました。

※学校の沿革と分布図は『百年史』(川上村立川上第一小学校 百年史編纂委員会編 1977) ほかを参照し、森と水の源流館 で作成しました。

井戸分校高原小 井 武 瀬 戸 小 北和田小 入之波小 西河小 白屋小 中奥小 粉尾小 川上村誕生 伯母谷分校 川上第三小 柏木小 川上第一小 川上第二小 奥入之波小 大正 大迫分校 三上第1日 川上第一中 川上第三中 終戦 伊勢湾台風 昭和 川上西小 川上中 ||上宣言 平成 川上小 かわかみ源流学園

建設中の吉野林業学校(西河区) (かわかみ源流学園の場所にありました)



新築時の川上第三高等小学校(北和田区) (のちの川上第三中学校)



かつて村内にあった木造校舎



上:川上第一小学校の全景(西河区) 下:川上第二小学校の運動会(迫区) (写真提供:村上美彌子さま)



人が集まり、 事業レポート 未来」へとつながる

取り組む新たな関係づくりが加速しています。 なチャレンジに、流域の小学生や消防署からも きました。また、実践的避難訓練のような新た 賛辞の言葉をいただき、源流館とともに学び 参加・協力いただき、益々取り組みが充実して 水源地の森ツアーと、 琵琶の滝プレツアーをはじめ、源流のつどい 多くの源流人会員さんに

いただくプレツアーを実施しました。 手力男神社で一年神主さんによる祈祷、 下多古壮年部さんが企画した、地元の名 「琵琶の滝」の案内をプログラム化するた 源流人会員さんにモニターとして参加 登

発。新緑が鮮やかな道を抜けると、 山道入口で修験道のお祓いを受けて、

いざ出

力強い滝が現れ、

参加者も疲れが

との発見につながる 楽しそうという意見 評で、集落を案内し 習にふれたことが好 が観光資源となるこ って当たり前のこと も出され、住民にと てもらえるだけでも に始まる滝巡りの風 換では、祈りととも ツアー後の意見交

機会となりました。

が、予定外の晴天での実施となりました。 ではの「雨の森のみどりを楽しもう」でした 定しています。今回のテーマは梅雨時期なら 水源地の森の魅力」が伝わるようテーマを設

ばさいわいです。

吹っ飛んだ様子でした。

源流のつどい

5月25日

程で先生と児童4名全員の避難誘導が完了

指導をお願いした吉野消防署から「職

火災報知器のサイレンが鳴ってから5分

をしました。 者と一緒に外来種駆除を兼ねた草刈りなど ィアを実施しました。今回は、 さんや流域の皆さん、元住民さんが気軽に つどえる場として、白屋の草刈りボランテ 川上村での環境保全活動に、 10名の参加 源流人会員

の出会いの場にもなるよう、今後の活動に を知りたい」などのお声をいただきました。 の結果、まとめの時間に「外来種問題をも も巻き込んだ楽しい交流ができました。そ は!」「また○○したいね」と、 始まりでしたので、「あの時は!」「あの場所 窓会さながらに盛り上がりました。そんな っと知ってほしい」「かつての様子やくらし に同級生と再会した元住民さんもいて、 つなげていきます 「源流のつどい」がこれらに関心のある方々 作業前の自己紹介では、何と約50年ぶり 他の参加者



6月15日

水源地の森ツア

あり、参加者は熱心に耳を傾けていました。 いただきました。参加した村民さんが折を 想いをはせて感銘を受けた」などの感想を お参りからでびっくりしたが、ツアーを終 のを観察することで、生きものが森を創っ を感じ取っていただきました。 ている仕組みがよくわかった」「山の神への 水源地の森」を保全している意味、 ご参加のみなさまありがとうございました。 ツアーは山の神への安全祈願からスター 参加者からは「道中、立ち止まって生きも 自然観察などを通じて「吉野川源流 村のことを説明してくださる場面も 村が森とどのように接して来たかに 大切さ

5月2日

的

訓 練

練を実施するため、 源流館でも、より危機感をもった避難 る実践的避難訓練を実施しました。 吉野消防署と橿原市立今井小学校に協力 する機会となりました。そこで森と水の 日々の適確な避難訓練の重要さを再認 事故で全員が無事に脱出できたことは、 ただき、見学中の児童を実際に誘導 1月に起こった羽田空港の日航機火災 奈良県広域消防組合

今年の水源地の森ツアーは、

「季節ごとの

する良い訓練」との評価をいただきました 員が自らの役割に基づき、的確に避難誘

利用頂ける施設として、

あれば、 と、やってみたいことなど 活動にさらなる弾みがつき や特技を活かし、「やりが 動に源流人会員さんが趣味 りが森と水の源流館の原動 ます。ご協力いただけるこ 力となっていることを改め ともにすると、人のつなが としどしご意見いただけれ て実感します。こうした活 い」を感じられる仕組みが 源流人会員さんと活動を 森と水の源流館の

個人 2,000円 家族 3,000円 学生 1,000円 団体10,000円



吉野消防署から講評いただきました

会を来館者に提供できる施設として運営の 伝えていくなど、総合的な観点での学習機 の役割に加え、防災面からも森の大切さを ルを改善していくとともに、「水」を育む森 この結果を踏まえ、多くの来館者に安全に 避難誘導マニュア 発行日:令和6年7月

工夫を続けていきます